

2023年2月のでがたんは申し込み制にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回3月のでがたんは3月11日(土)で、テーマは「ものまねチャンピオン・モズ」です。ぜひご参加ください。3月1日(水)から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回の下見は3月5日(日)です。

2月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場→けやき広場
- 観察日時と天気：2023年2月11日(土) 10:00~11:00 晴
- 参加人数：20名(大人17名、中学生以下3名)
- 市民スタッフ：4名(伊東茂子、小泉伸夫、弘實さと子、湯瀬一栄)
- 博物館友の会：1名(古澤紀元) ●鳥博職員：1名(小田谷嘉弥)

観察した生き物の記録

「*」は、下見だけで見られたもの。

【鳥類】

カモ科：マガモ、カルガモ、コガモ、トモエガモ*、ヒドリガモ*/カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アカガシラサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ/クイナ科：クイナ*、ヒクイナ、バン*、オオバン/シギ科：タシギ/カモメ科：セグロカモメ*、ユリカモメ/ミサゴ科：ミサゴ/タカ科：トビ/カワセミ科：カワセミ/モズ科：モズ/カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス/メジロ科：メジロ/ムクドリ科：ムクドリ/ヒタキ科：アカハラ*、ツグミ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ/アトリ科：カワラヒワ、シメ/ホオジロ科：ホオジロ、アオジ、オオジュリン
家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

【哺乳類】

イタチ(足跡)・アライグマ(外来種・足跡)・ヨツユビハリネズミ(外来種・死体)

【魚類】

コイ(死体)・ハクレン(死体)

【昆虫】

チョウ目：ヒロバフユエダシャク、ヨトウガの仲間(幼虫)、チャミノガ(幼虫)、ヒロヘリアオイラガ(まゆ)/コウチュウ目：スナゴミムシダマシ、ナミテントウ/ハチ目：ハリアリの仲間/カメムシ目：ビワコカ
タカイガラモドキ/ハエ目：ヒラタアブの仲間、ユスリカの仲間

【クモ】

ハシリグモの仲間

【ナメクジ】

ヤマナメクジ

【花・実】

草の花 キク科：セイヨウタンポポ/アブラナ科：ナズナ/オオバコ科：オオイヌノフグリ/ナデシコ科：オランダミミナグサ/シソ科：ホトケノザ
草の実 イネ科：ヨシ/ガマ科：ヒメガマ、ガマ/キク科：セイタカアワダチソウ/アカネ科：ヘクソカズラ/ウリ科：カラスウリ/モクセイ科：トウネズミモチ

2月の観察アルバム



今回のテーマは「冬のヨシ原の生きもの」でした。ヨシ原を構成する3種の植物の特徴をおさらいしたあと、鳥たちを中心に、冬のヨシ原の中で暮らす生きものの生活の様子を観察しました。



今月の案内人
小田谷嘉弥・弘實さと子



① サザンカの花を訪れていたメジロ



② ふわふわのヒメガマの穂



③ ヨシ原の縁でじっとしていたアカガシラサギ



④ ヨシの中を移動しながら採食していたオオジュリン



歩いたルートと観察した生き物



⑤ ヨシ原を構成するヨシとマコモ



⑥ ヨシ原の縁のナガエツルノゲイトウの上で採食していたヒクイナ



⑦ ほころんでいたウメのつぼみ



⑧ さえずっていたシジュウカラの雄

今月の鳥 ヒクイナ (ツル目クイナ科)

有名な唱歌『夏は来ぬ』に「…川べの宿の 門遠く くいな声して…」と歌われている「くいな」は本種の事であるといわれています。この歌は初夏の風物がいくつも登場しますが、ヒクイナの「キョ、キョ、キョキョキョ…」という尻下がりの特徴的な鳴き声もその一つでした。かつては夏鳥として日本各地に広く渡来していましたが、水田などの身近な湿地環境の減少により、現在はどこでも見られる鳥ではなくなっていました。しかし、2010年代に入ったころから、関東地方で越冬するようになり、手賀沼でも博物館周辺をはじめ、ヨシ原のある所ならほとんどどこでも確認できるようになっています。ヨシ原の際をひっそりと歩く姿や、「キュルル…」という地鳴きを頼りに姿を探してみましょう。



ヨシ原から出てきたヒクイナ